

# 日本盲人図書館における点訳奉仕活動の実態

## 「点訳奉仕者個人別台帳」の閲覧結果より

Record of braille transcription work by volunteers in the Japan blind library  
1940-1948

Tomoko Nishiwaki

西 脇 智 子

日本語コミュニケーション学科准教授

### 抄録：

本稿では、日本点字図書館所蔵永久保存「点訳奉仕者個人別台帳」の閲覧結果を報告した。すなわち、延べ218名の点訳者は、819冊の点訳本を昭和16年1月から昭和23年3月までの87か月のうち85か月にわたり寄贈していた実態が判明した。91名の点訳者は、戦中戦後のわが国の社会情勢下においても途切れることなく点訳本を寄贈した。この点訳奉仕活動の成就是、今日の日本点字図書館の礎を築いた日本盲人図書館の証である。

### Summary：

This paper reported on the record of braille transcription work by volunteers in the Japan blind library 1940-1948.

キーワード：日本盲人図書館、点訳奉仕者個人別台帳、点訳奉仕活動、点訳者、蔵書、本間一夫

**Key Words**：Japan Braille library 1940-1948, Record of braille transcription work, Braille transcription work activities, Braille transcription work by volunteers, collection of books, Kazuo Honma

### はじめに

全国の津々浦々で紀元二千六百年の祝賀が行われた1940（昭和15）年11月10日、本間一夫は日本盲人図書館を創設した。社会福祉法人日本点字図書館の前身となる日本盲人図書館の活動は、二度の疎開を経て、戦後1948（昭和23）年4月に日本点字図書館と改称して再出発するまでの7年5か月に及んだ。

創設75周年に当たる節目となった2015(平成27)年、日本点字図書館は、日本盲人図書館の史実を紐解くために不可欠な2つの貴重な資料を発見した成果を報告するため、『本間一夫と日本盲人図書館：本間一夫生誕百年記念出版』を刊行した。筆者は、2012(平成24)年9月に帰館した日本盲人図書館の210冊の「蔵書」と2,261枚の「貸出カード」の分析を担当し、帰館した点字図書には、点訳書70冊(点訳寄贈書44冊、点写寄贈書26冊)と、点字出版書140冊(明治・大正時代発行書26冊、昭和時代の発行書83冊、発行年等の記載が不足する図書31冊)が含まれていたことを報告した(西脇 2015a、2015b、2015c、2015d、2015e、2015f)。筆者はとくに点訳寄贈書に残された本間直筆の「本書の点訳を感謝して」の一文や「点訳者のことば」に触れて、日本盲人図書館の蔵書特性として浮かび上がる本間と読者と点訳者の三位一体の関係性に感心した。

日本盲人図書館では、どのような点訳奉仕活動が展開されていたのだろうか。これまでに報告された点訳奉仕活動の動向は、蔵書数からみると、1940(昭和15)年の700冊、1941(昭和16)年の1,300冊、1942(昭和17)年の1,700冊、1943(昭和18)年の2,300冊、1947(昭和22)年の3,027冊である(日本点字図書館50年史編集委員会 1994:303)。このうち点訳本と点訳者数は、1944(昭和19)年8ヵ月計の延べ69名で115冊(4月～6月の延べ21名で39冊、7月～8月の延べ22名で32冊、9月～11月の延べ26名で44冊)である(日本点字図書館50年史編集委員会 1994:226)。しかし、2010年に日本点字図書館が発行した『点字とあゆんだ70年：日本点字図書館点訳奉仕活動の記録』22頁の「点訳奉仕者の活動実績」によれば、1944(昭和19)年4月～10月までの奉仕者数は延べ69名で蔵書製作数115冊であり、その他の年度の数値は「不明」と記載されている。また、「本間一夫と日本点字図書館」に造詣が深い谷合は、「この時期の点訳奉仕者の数は不明であるが、昭和18年末の2,300冊から昭和22年の末3,027冊へと蔵書数が増加しているのをみると、この4年間に約700冊の点訳書が寄贈されたとみられる。戦中・戦後の混乱期にこれだけの点訳書が奉仕者によって作られたということは、まさに驚異の一語に尽きる」(谷合 1994:227)と述べている。現在、把握できるこれらの情報に照らしてみると、日本盲人図書館の点訳者と点訳本の実数値は未だ精査する時期を脱していない状況にあることが推察できよう。

そこで筆者は、日本盲人図書館の蔵書数や点訳者と点訳本の実数を把握する術はないかと探ったところ、2015(平成27)年1月に「点訳奉仕者個人別台帳」の所在が明らかになった。日本点字図書館の許可を得て、この「点訳奉仕者個人別台帳」を一頁ずつ閲覧し、日本盲人図書館の時代に照らして一致する4つの情報(①点訳奉仕者の氏名、②寄贈書受付年月日、③書名、④著者名)を別紙に転記し、諸データの収集整理分析を試みた。

本研究の目的は、日本点字図書館の発展の礎となった前身の日本盲人図書館の蔵書貸出事業における点訳奉仕活動の実態を探ることである。そこで本稿では、これまで一部分が不明となっていた日本盲人図書館における点訳奉仕活動の実態を明らかにするために、日本点字図書館が所蔵する図書製作部点字製作課点訳書製作室の永年保存取扱資料「点訳奉仕者個人別台帳」の①点訳奉仕者の氏名、②寄贈書受付年月日に着目して得られた閲覧結果について報告する。

## 研究の結果と考察

### 1. 調査対象

本研究の調査対象は、日本点字図書館所蔵「点訳奉仕者個人別台帳」である。この台帳の整理日は2013年11月2日である。整理責任者である図書製作部点字製作課点訳書製作室の課長（当時）勢木一功が全56冊のバインダーを14冊ずつコクヨ製保存箱（No.5～8）に入れて、日本点字図書館地下の書架に永年保存したものである（図1）。

図1 日本点字図書館所蔵「点訳奉仕者個人別台帳」



### 2. 日本盲人図書館における点訳本の受け付け状況について

はじめに「点訳奉仕者個人別台帳」の①点訳奉仕者の氏名、②寄贈書受付年月を閲覧して得られた、日本盲人図書館における点訳本の受け付け状況について報告する（表1）。

昭和16年1月～昭和23年3月までの全受け入れ期間87か月に対して、受け付けのあった期間は85か月であり、受け付けられた点訳本の合計は819冊に上った。

表1 日本盲人図書館点訳本の受け入れ記録 (単位:冊)

	昭和16年	昭和17年	昭和18年	昭和19年	昭和20年	昭和21年	昭和22年	昭和23年	合計
1月	0	6	10	15	14	9	11	3	68
2月	3	15	9	16	12	2	6	7	70
3月	4	9	9	24	10	3	4	2	65
4月	3	16	13	12	4	14	7	0	69
5月	6	7	11	19	5	1	7	0	56
6月	3	5	17	10	4	5	5	0	49
7月	6	15	14	14	9	3	7	0	68
8月	0	7	10	17	2	2	6	0	44
9月	4	7	20	17	2	10	6	0	66
10月	7	18	17	28	7	5	3	0	85
11月	4	13	12	21	14	7	4	0	75
12月	2	13	59	18	6	1	4	0	103
不明	0	1	0	0	0	0	0	1	
合計	42	131	202	211	89	62	70	12	819

点訳本の受け付けがもっとも多かったのは昭和19年の211冊、次いで昭和18年の201冊である。昭和19年3月には、東京の戦火を逃れて、茨城県結城郡総上村に疎開し、昭和20年4月に本間の郷里である北海道増毛に再疎開をするまでの12か月間、宗道郵便局から貸出を続けた時期に当たる。昭和19年3月～12月の180冊と、昭和20年1月～3月の36冊を合わせてみると216冊を数えることになる。茨城の疎開先での貸出活動は多忙を極めていたことが推察される。

二度目の疎開をすることになった昭和20年4月～昭和23年3月の間には、197冊の点訳本の受け付けが認められた。終戦後の昭和20年8月～12月の31冊、昭和21年の62冊、昭和22年の70冊、昭和23年1月～3月の12冊を合わせてみると175冊を数えることになる。終戦後のこの時期にあっても、点訳本は毎月かならず受け付けられていたことが明らかになった。

### 3. 日本盲人図書館の点訳奉仕活動

次に、「点訳奉仕者個人別台帳」の①点訳奉仕者の氏名、②寄贈書受付年月を閲覧して得られた、日本盲人図書館における点訳奉仕活動の全体像について報告する(表2)。

昭和16年1月～昭和23年3月までの全受け入れ期間87か月に対して点訳奉仕活動を支えた点訳者数は、延べ218人に上った。

寄贈点訳本の202冊は、奉仕活動に尽力された延べ218人の手によって点訳されたことが判明した。

表2 日本盲人図書館における点訳奉仕活動の実態

	昭和 16年	昭和 17年	昭和 18年	昭和 19年	昭和 20年	昭和 21年	昭和 22年	昭和 23年	合計
点訳者数 (人)	11	32	59	57	21	16	17	5	218
点訳本数 (冊)	42	131	202	211	89	62	70	12	819

注：昭和23年は、1月～3月までが日本盲人図書館としての活動である。

さらに、「点訳奉仕者個人別台帳」の①点訳奉仕者の氏名、②寄贈書受付年月を閲覧して得られた、日本盲人図書館における点訳奉仕者の実活動について報告する（表3）。

昭和16年1月～昭和23年3月までの全受付期間87か月に対して点訳奉仕活動を支えた点訳者は、91名であることが判明した。

筆者は、帰館した日本盲人図書館の蔵書に触れ、とくに点訳寄贈書に残された本間直筆の「本書の点訳を感謝して」の一文や「点訳者のことば」を通して、本間と点訳者の関係性もさることながら、本間と読者と点訳者の三位一体の関係性に感心した（西脇 2015 - c : 38 - 49）。点訳者は戦中戦後のわが国の社会情勢下において、唯一無二の点訳本を作製し、日本盲人図書館に寄贈するという奉仕活動を成就させていたのである。

表3 日本盲人図書館における点訳奉仕活動記録

## 日本盲人図書館 昭和16年

点訳者名(旧姓)	点訳本の受入月別数(単位:冊)												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1 岩元正雄					2		1			1			4
2 沓名芳枝				1	1	1	3					2	8
3 後藤静香			3							1			4
4 鈴木京子		3			1								4
5 高岡ツネヨ							1		1		1		3
6 沼波政子					2					3			5
7 福田 弘										1			1
8 堀川筆子						1							1
9 三浦みやげ									3		2		5
10 村松君子			1	2		1	1						5
11 山本篁										1	1		2
合計	0	3	4	3	6	3	6	0	4	7	4	2	42

日本盲人図書館 昭和17年

点訳者名 (旧姓)	点訳本の受入月別数 (単位:冊)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1 新 孝之輔				1	1	1	1	1				1	6
2 荒木邦男										1			1
3 阿波音次郎								2					2
4 栗村チエ子												1	1
5 伊藤正雄											1		1
6 岩見英利				2			1				3		6
7 岩元正雄	2			1		1	1		2				7
8 岡崎富輔							2			1		1	4
9 上條ひさ枝			1	1			1		1		1		5
10 杓名芳枝	1		2	1		2	3	3		2		1	15
11 後藤静香		1	1										2
12 桜井正代			1	1									2
13 清水たへ子										1			1
14 杉橋親次										2	3	2	7
15 杉本利明			2										2
16 鈴木京子				2									2
17 鈴木将美												2	2
18 高岡ツネヨ		2	1				3	1			3		10
19 高橋豊治									2				2
20 トーセイ学園					3								3
21 直井 鉄										1			1
22 沼波政子		2								3			5
23 羽田光一							1						1
24 福田 弘		1	1		1	1							4
25 堀川筆子	3												3
26 松原雪江											2	2	4
27 丸田恭子									1				1
28 三浦みやけ		1		3	1		1		1	1		3	11
29 村松君子		7		1	1		1			5			15
30 村松そよ				1									1
31 山本 篁		1											1
32 吉野 耕				2						1			3
合計	6	15	9	16	7	5	15	7	7	18	13	13	131

## 日本盲人図書館 昭和18年(1)

点訳者名(旧姓)	点訳本の受入月別数(単位:冊)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1 浅田知恵						1					1		2
2 新 孝之輔						1		2		2			5
3 荒木邦男				1									1
4 栗村チエ子		2											2
5 井添富久代											1		1
6 伊東茂子						4		2					6
7 伊藤正雄					1		1			1		1	4
8 井上寛子												1	1
9 岩見英利									2			2	4
10 内田須規子												3	3
11 大森紀子					1								1
12 岡崎富輔				2		2		1			1		6
13 小倉富司子												5	5
14 尾崎啓一										3		1	4
15 鴛淵佐智子												2	2
16 各務房子					1	2		2	1		2		8
17 賀来百合子				1									1
18 上條ひさ枝		1									2		3
19 岸 登烈									5				5
20 木下歌子												1	1
21 後藤静香	1												1
22 坂井きぬ												3	3
23 桜井正代		3			1								4
合計	1	6	0	4	4	10	1	7	8	6	6	20	73

## 日本盲人図書館 昭和18年(2)

点訳者名(旧姓)	点訳本の受入月別数(単位:冊)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
24 杉橋親次			2			1	1						4
25 鈴木京子									2				2
26 鈴木まつ												2	2
27 高岡ツネヨ				2			2		1				5
28 高須すみ子						1				3	1	1	6
29 高橋恵美子			1										1
30 竹重スミエ												1	1
31 田尻治男・芝峯武夫			1				1						2
32 橘 孝次郎		1	1							1	2		5
33 鶴田良子												6	6

34	富岡初恵	1			1		1	1						4
35	富田和子												8	8
36	直原輝夫												1	1
37	中平寿賀子												3	3
38	新山 重					1								1
39	沼波政子	3			2									5
40	羽田光一										2			2
41	林 次一		1											1
42	久田端葉	2			1	2	1	2		2	1			11
43	平井テル子												6	6
44	福田 弘							1	1					2
45	間垣洋助		1											1
46	増田白子										1	1	2	4
合計		6	3	5	6	3	4	8	1	5	8	4	30	83

日本盲人図書館 昭和18年(3)

点訳者名(旧姓)	点訳本の受入月別数(単位:冊)												合計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
47 松原雪江			2				2							4
48 松本 功							1							1
49 丸田恭子											2			2
50 三浦みやげ			2		1	1	1			1		1		7
51 峰岸静江							1		1	1				3
52 宮島美穂子				1	2									3
53 村尾りつ子	1			2						1				4
54 村松君子									5					5
55 山田久子						2		2						4
56 山本正子													5	5
57 山本ゆき子(水谷)													3	3
58 吉田知子	2													2
59 吉野 耕					1					1				2
合計		3	0	4	3	4	3	5	2	7	3	2	9	45



## 日本盲人図書館 昭和19年(1)

点訳者名(旧姓)	点訳本の受入月別数(単位:冊)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1 相川七郎										1			1
2 青鹿園子					1	1	1						3
3 新 孝之輔				1								1	2
4 荒木邦男			1				1						2
5 新木寿子		1					1		1			1	4
6 井添富久代								1					1
7 伊東茂子	1												1
8 伊藤正雄		1								3			4
9 井上寛子					1								1
10 内田須規子								2			2		4
11 宇野幸子		2		2	2			4			3		13
12 漆原富美子(木下)								3	1			4	8
13 大関のぶ子											2		2
14 奥山貞子									1				1
15 小倉富司子	1		2					1	1				5
16 尾崎啓一	1												1
17 鴛淵佐智子				1		1		2		1			5
18 各務房子	2	1		1	1		1		1	1		1	9
19 柏原秀子						1						1	2
20 上條ひさ枝												1	1
小計	5	5	3	5	5	3	4	13	5	6	7	9	70

## 日本盲人図書館 昭和19年(2)

点訳者名(旧姓)	点訳本の受入月別数(単位:冊)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
21 岸 登烈										6			6
22 沓名芳枝									1				1
23 久保寺昌子	1												1
24 後藤静香									1				1
25 坂井きぬ	1								2			1	4
26 佐藤みよ			1	1			2					2	6
27 鈴木将美					2	2							4
28 鈴木まつ	1	1	1				2				2		7
29 高岡ツネヨ			2				1						3
30 高須すみ子	1		2		2	1	1				3		10
31 滝口まき											1		1
32 橘 孝次郎					1								1
33 鶴田良子		2											2

34	戸田エダ									1			1	
35	富岡初恵	1				1							2	
36	富田和子	2	1	1	1	3		1	1	2		1	13	
37	直原輝夫							2					2	
38	中平寿賀子		1						1	1			3	
39	丹羽一身									1			1	
40	沼波政子									2			2	
小計		7	5	7	2	8	4	6	3	6	13	6	4	71

日本盲人図書館 昭和19年(3)

点訳者名(旧姓)	点訳本の受入月別数(単位:冊)												合計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
41 久田端葉	1		6	1					1		1		10	
42 平井テル子						1				1			2	
43 福田 弘					1								1	
44 増井白子		2		1	2	1		1	1	1	1	2	12	
45 増田久栄			1		2				2		2		7	
46 松村百合子			1						1		1		3	
47 三浦みやけ			2										2	
48 三添 了							1						1	
49 峰岸静江										1			1	
50 峰岸周七										5	1		6	
51 村尾りつ子		1									1		2	
52 村松君子							1						1	
53 山田久子		3										2	5	
54 山本正子	2							1				1	4	
55 山本ゆき子(水谷)				1					1				2	
56 横溝ミエカ						1							1	
57 吉田知子			3	2	1		1		1		1		9	
小計		3	6	13	5	6	3	3	2	7	8	8	5	69

## 日本盲人図書館 昭和 20 年

点訳者名 (旧姓)	受入月別の点訳本数 (単位:冊)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1 相川七郎	1	1	1		2					1	1		7
2 新 孝之輔		2								1			3
3 新木寿子			1										1
4 内田須規子					2								2
5 宇野幸子	2	2	2				4				3	2	15
6 漆原富美子	2	1										1	4
7 小倉富司子				1									1
8 川瀬富恵			2										2
9 香名芳枝										3			3
10 佐藤みよ			1			2						2	5
11 鈴木まつ							2						2
12 富田和子										2		1	3
13 久田端葉	2		2							1			5
14 藤林とく							1	2	2	1	1	1	8
15 増田久栄					1								1
16 松村百合子		1											1
17 峰岸静江							1						1
18 峰岸周七	4	3		2							9		18
19 村尾りつ子						2							2
20 山本正子		2		1			1						4
21 吉田知子			1										1
合計	11	12	10	4	5	4	9	2	2	9	14	7	89

## 日本盲人図書館 昭和 21 年

点訳者名 (旧姓)	受入月別の点訳本数 (単位:冊)												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1 相川七郎	1	1	1	2	1	2	1	2	2		3		16
2 宇野幸子	2										1		3
3 漆原富美子 (木下)				2									2
4 各務房子									1				1
5 佐藤みよ				1									1
6 篠原幸子	1								1				2
7 富岡初恵									2				2
8 久田登美江										1			1
9 藤林とく	3	1	1	4					4				13
10 増井白子			1	2			1			1			5
11 増田久栄											1		1
12 三浦みやげ							1						1

13	峰岸静江	1											1	
14	峰岸周七	1		3		3				1			8	
15	山田久子										4		4	
16	山本正子										1		1	
合計		9	2	3	14	1	5	3	2	10	3	10	0	62

日本盲人図書館 昭和22年

点訳者名 (旧姓)	受入月別の点訳本数 (単位:冊)													合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
1 相川七郎	3	1	1	2	2	2	3	2	1	2	1	2	22	
2 荒谷キク							2		1			1	4	
3 宇野幸子	1												1	
4 各務房子					2								2	
5 杳名芳枝		2											2	
6 小林隆平									2				2	
7 佐藤みよ	1												1	
8 廣部登茂子				2									2	
9 藤林とく			3	2	1		1	2	1	1		1	12	
10 増井白子	1	1			1			1	1				5	
11 松村百合子		2											2	
12 三浦みやげ	1												1	
13 峰岸周七	3					2					1		6	
14 山崎田鶴子							1						1	
15 山田久子											1		1	
16 山本正子	1			1		1		1			1		5	
17 吉田知子					1								1	
合計	11	6	4	7	7	5	7	6	6	3	4	4	70	

日本盲人図書館 昭和23年

点訳者名 (旧姓)	受入月別の点訳本数 (単位:冊)													合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
1 相川七郎		3	1										4	
2 宇野幸子	1	1											2	
3 藤林とく	2												2	
4 増井白子		1											1	
5 峰岸周七		2	1										3	
合計	3	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	

なぜ本間は点字図書館の事業を継続させることができたのだろうか。先行研究によれば、昭和初期における点字図書館の事業を継続させた要因の1つとして、「点訳奉仕活動の推進」が示唆されている。

点字図書館の黎明期における点訳奉仕運動については立花が詳細に述べている。文献から判断する日本の点訳奉仕活動は、岩橋武夫のライトハウスで1929（昭和4）年に結成した点訳活動団体である点訳奉仕グループ「フレンド写本点字奉仕会」（FBS）にその始まりをみることができる。しかし、本間自身は蔵書を増やすために、「岩橋のような発想はなかった」と述べている。特筆されることとして、本間に後藤静香を引き合わせた雨池信義の存在を挙げている。開館まで1か月を切った1940（昭和15）年10月13日午後4時、雨池は本間と連れ立って西大久保の「心の家中央部」をたずね、後藤に本間を紹介している。「肝心の点字の本は、どうやって増やしていくのですか」と問うた後藤は、明快な答えを持ち合わせずにいた本間に、「広く世の人たちに、点訳奉仕を呼びかけなさい。欧米ではたいへん盛んに行われているのだから、日本人の心の中にも、これに応じてくれる芽は必ずひそんでいるはずですよ」と言い切っている。後藤が提唱した点訳奉仕活動が、日本盲人図書館の蔵書を飛躍的に増加させ、他館を抜いて最多の蔵書を誇るに至らせる、そのきっかけはこの日にあったと言える（立花2010：2-3）。

日本盲人図書館を支えたのは二つの点訳団体である。一つは、1942（昭和17）年4月に発足した「大日本点訳奉仕団」である。団長に後藤が、常務幹事に本間が就任し、事務局は日本盲人図書館に置いた。もう一つは、1943（昭和18）年3月20日の毎日新聞が報じた、井上英会話スクール校長である井上当蔵夫妻の発起で結成された「点字奉公会」である（立花2010：4-5）。キャラミ・マースメも本間の「点訳運動は、創立以来、一番の障害であった点字図書不足を補うため、東京を中心に当初よりボランティアによって支えられていた。この運動が、戦争によって日々増加していく失明軍人たちに対して同情し援助したいという気持ちを抱いていた国民に広く歓迎された」と述べ、具体的に大日本点訳奉仕団（団長：後藤静香）と点字奉公会（団長：井上当蔵）の活動に注視していた（キャラミ・マースメ、河内清彦2011：99-100）。

大橋は、点字雑誌『六星の光』第6号・第7号（1904年）に「日本の盲人の父」とも呼ばれる好本督（よしもと ただす）が「盲人の読書期間」と題して、「国民盲人用図書貸出館」創設の必要性を力説したことを紹介している。好本は英国の点字図書館事情に照らして、「盲人のために点字書を作るなどと言うことは、婦人のなしうる慈善事業の中にも、もっともうるはしく、もっとも簡易なるものだと思う」と、わが国の婦人に点字図書の作成に協力してもらおうよう、点訳奉仕活動の推進を示唆している（大橋2011：42-43）。大橋は、後年、好本を師として仰いでいた本間に限らず、英国の読書事情や慈善事業に啓発された盲人運動の先覚者たちは少なくないと指摘している。しかし、好本自身は、婦人の尽力を得て、多くの点字図書を作成し、それを貸し出すという事業、すなわち最も行いたかった「盲人のための点字図書館」の夢は実現しなかった。好本は、英国のオックスフォードで、キリスト教の精神とその遺産にふれ、また、優れた社会事業に目を開かされて、自身も弱視という障害の身であったことから、隣人愛をもって日本の盲人のために深く、広くそれを研究し、日本の盲人界の改良と盲人福祉の改善を目指した。盲人

福祉事業を背後から支えようと、盲人指導者の育成に力を注ぎ、育てた人に惜しまぬ援助を行った。「ライトハウス」の岩橋武夫も「日本点字図書館」の本間も好本の援助を多く受けていたのである(森田2010:11、14)。

点字図書館の要望は高く、また事業成功の鍵の一つに点訳奉仕活動が欠かせないことも示唆されてきた。戦中戦後の社会情勢の中でも途切れることなく貸出事業を継続できた日本盲人図書館は、今日の社会福祉法人日本点字図書館に至る成長と発展を遂げる礎となった。その原動力は、創設者である本間と点訳者と読者の三位一体の関係性に他ならない。点訳奉仕者が創り出した唯一無二の点訳寄贈書は日本盲人図書館の点訳奉仕活動の証である。

### おわりに

社会福祉法人日本点字図書館の前身となる日本盲人図書館は昭和15年11月10日に創設され、点字図書の蔵書数は創設時の700冊を起点にして、2001(平成13)年度末に最高期となる16万9,493冊に達するまでに成長発展した(記念誌製作委員会編 2011:106)。

本研究は、日本点字図書館の発展の礎となった前身の日本盲人図書館の蔵書貸出事業における点訳奉仕活動の実態を探り、これまで日本盲人図書館の点訳奉仕者数と寄贈点訳本数については一部分のデータが不明となっていた点に着目し、日本点字図書館図書製作部点字製作課点訳書製作室の永年保存取扱資料「点訳奉仕者個人別台帳」(①点訳奉仕者の氏名、②寄贈書受付年月日)を閲覧した結果について報告した。

この台帳閲覧結果から判明したのは、日本盲人図書館における昭和16年1月から昭和23年3月までの7年5か月、すなわち87か月にわたる点訳奉仕活動の実態、①点訳本の受付を確認できたのは、全87か月のうち85か月であり、点訳本の寄贈がほぼ毎月あったこと、②また、この85ヶ月に寄贈された点訳本は819冊であり、③この間の点訳奉仕者は、延べ218名に上ったことである。また、全期間87か月を通して点訳奉仕活動を支えたのは、91名の点訳奉仕者であった。

日本盲人図書館は、二度の疎開を余儀なくされるも、郵送による貸出事業を継続したことは周知の如くである。本稿の結果に照らしても、戦中戦後のわが国の社会情勢下においても途切れることなく、点訳者は唯一無二の点訳本を作製して寄贈するという点訳奉仕活動を成就させた。この点訳奉仕活動の実態は、今日の日本点字図書館の礎を築いた日本盲人図書館の証であることが裏付けられた。

しかし、日本盲人図書館の点訳奉仕活動の実態を明示するデータとしては、日本点字図書館の各記念誌や『点訳通信』などの記述や先行研究があるものの、それらに照らしても、また本稿の結果を加えても、なお未だ精査する時期を脱していない状況にあると推察するに至った。

昨年8月23日、筆者らは日本点字図書館内において日本盲人図書館のオリジナルノート(点訳本受付記録)を発見した。このノートから時系列に事実を読み解いて、日本盲人図書館の点訳奉仕活動の真実を探求することが今後の課題である。

## 謝辞

本研究のために、貴重な永久保存資料の閲覧をお許しいただきました日本点字図書館理事長の田中徹二先生はじめ前館長の杉山雅章先生、現館長の長岡英司先生、また資料の収集整理ならびにご助言を賜りました本間記念室の伊藤宣真様、小野俊己様、濱田幸子様、渡邊明様、立花明彦先生に多大なご高配を賜りました。ここに記して深甚なる感謝の意を表します。

## 文献一覧

- 大橋由昌 (2011) 「読書権運動の起源: 明治期の点字雑誌に見る点字図書館創設への願い」『図書館雑誌』105 (1) 42 - 43 頁
- 記念誌製作委員会編 (2011) 『日本点字図書館創立 70 周年記念誌 新たな世紀、新たなサービス: 電子図書館へのあゆみ』日本点字図書館
- キャラミ・マースメ、河内清彦 (2011) 「昭和初期における日本点字図書館の事業継続要因として失明軍人の果たした役割」『障害科学研究』35、95 - 107。
- 立花明彦 (2010) 「第 I 部 図書館の黎明期における点訳奉仕運動」、日本点字図書館編『点字とあゆんだ 70 年: 日本点字図書館点訳奉仕活動の記録』日本点字図書館、2 - 6 頁
- 谷合 侑 (1994) 「本間一夫と日本点字図書館」、日本点字図書館編集委員会編『日本点字図書館 50 年史』日本点字図書館、214 - 285 頁
- 西脇智子 (2015 - a) 「第 3 章 1. はじめに: 帰館した貸出活動の証」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館: 本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館 (非売品)、34 - 35 頁
- 西脇智子 (2015 - b) 「第 3 章 2. 貸出カードに見る蔵書状況」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館: 本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館 (非売品)、36 - 37 頁
- 西脇智子 (2015 - c) 「第 3 章 3. 点訳書の構成と本間直筆の〈感謝のことば〉」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館: 本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館 (非売品)、38 - 49 頁
- 西脇智子 (2015 - d) 「巻末資料 4. 貸出カード書名一覧」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館: 本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館 (非売品)、98 - 102 頁
- 西脇智子 (2015 - e) 「巻末資料 5. 帰還した日本盲人図書館の蔵書: 点訳寄贈書及び点写寄贈書一覧」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館: 本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館 (非売品)、103 - 105 頁
- 西脇智子 (2015 - f) 「巻末資料 5. 帰還した日本盲人図書館の蔵書: 点字出版書一覧」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館: 本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館 (非売品)、106 - 107 頁
- 日本点字図書館編 (2010) 『点字とあゆんだ 70 年: 日本点字図書館点訳奉仕活動の記録』日本点字図書館
- 日本点字図書館編集委員会編 (1994) 『日本点字図書館 50 年史』日本点字図書館
- 古澤敏雄 (1997) 『本間一夫: この人、その時代』善本社
- 本間一夫 (1941) 「〈日本盲人図書館〉に就いて」『図書館雑誌』35 (10)、722 - 723 頁
- 本間一夫 (1980) 『指と耳で読む: 日本点字図書館と私』(岩波新書 黄版 138) 岩波書店
- 森田昭二 (2010) 「好本督と〈日本盲人会〉の試み: 盲人福祉事業の先覚者が描いた夢」『社会福祉学』51 (2)、5 - 16 頁

